



特集 | コミュニケーション技術の習得

新カリキュラムが発表されようとしている。基礎看護学のなかに強化すべき内容としてあげられるコミュニケーション。しかし、医療現場の複雑化、患者のおかれている状況や人々の意識の変化、あるいは学生気質の変化などから考えると、基礎看護学内にとどまらず、どの分野においても強調されてしかるべきことであろう。

コミュニケーション技術の習得は、さまざまな方法で行われているが、本誌が注目したのはプロセスレコードを用いた教育方法である。

患者との関わりの場面を再構成して、自らの看護を振り返る。対人関係論を基盤としたこの方法は、適切な指導者がいて初めて効果をあげる。

プロセスレコードをコミュニケーション技術の獲得のツールとして活用するために、どんな点に気をつけたらよいのか。基礎教育・臨床のそれぞれから、活用の背景と実践について紹介する。

また、医療におけるコミュニケーションの改善のために、臨床で最近話題となっているADRの取り組み、医療を受ける立場からの提言を掲載したので、あわせて読んでほしい。